

体験・学習

未来のぼくらの町をどうしたいか！？ 開発による汚染を減らすにはどうする？



ねらい

開発の代償となった「汚染問題」に着目し、特に水環境の汚染を防止するために汚染源を考え、開発を有意義にするには、どうしたら良いか、何に気を付け実践するかなどを考察し、より具体的に提案したり、ディベートしたり、プレゼンできるようになることを目的とする。アクティブラーニングに最適である。

概要

※プロジェクト WET、ならびにプロジェクトワイルド（いずれもアメリカ発の環境教育プログラム）を活用する。

開発には多かれ少なかれ、必ず「汚染」の問題が付きまとう。暮らしやすい街を創成するためにも開発は重要であるが人間の利便性ばかりを追求すると、汚染も比例して拡大してしまう。特に水環境には最大限に配慮しなければならない。また、周辺の自然環境や、棲息する生物への配慮も重要である。当プログラムでは、未来の暮らしやすく、環境にも十分に配慮された（甲府の）街づくりを推進するために『汚染源』について考え、汚染を防止するために必要な具体的な施策について、それぞれの学年に応じたレベルでディベートを行い、学校や行政にもプレゼンテーションできる能力を養う。

場所

教室・体育館など

時期
(季節)

通年

対象

小学4年生以上

人数

クラス～学年単位

プログラム No.5

タイムスケジュール

所要時間

45分

※学校では授業時間に合わせます。

(小学校の45分授業で、『塵も積もれば』を活用した場合)

- 0分～ 2分 講師自己紹介
- 2分～20分 水辺の開発の希望図を自由に描く
- 20分～35分 希望図から、環境へのインパクトを指摘して「汚染源」について考察
- 35分～45分 まとめ・ふりかえり

以降、理想的な開発の提言を各自の宿題とすることもできます。

※上記は、あくまで一例です。2時限連続や、正味1時間など、主催者（申請者）の都合に合わせて調整できます。

参加者負担費用

要相談

持ち物・準備品

筆記用具

その他（特記事項）

- ・プロジェクト WET は、「水」について、また、プロジェクトワイルドは生物について、様々な角度から学べる米国生まれの環境教育プログラムで、当方はファシリテーター（上級指導者）の資格を有しております。なお、米国本部とのライセンス契約により、エデュケーター（一般指導者）以上の有資格者のみ指導可能なプログラムです。
- ・数ある、プロジェクト WET・ワイルドのアクティビティの中から、要望に応じて対応可能なアクティビティを選んで活用致します。
 - 例1：『未来の荒川流域の開発を考えよう（仮題）』
（WET『塵も積もれば』を活用）
 - 例2：『ずっと未来に残したい甲府の風景を守ろう（仮題）』
（WET『ハンプティータンプティータン』ワイルド『みんなのトンボ池』などを活用）
- ・指導時間の調整も可能なので、希望する内容や、詳細はお問い合わせください。

実施団体

HOOK（フック）かんきょう『協育』事務所

代表者氏名 野澤 健夫（のざわ たけお）

申込受付 Email hook.kyoiku@mx5.nns.ne.jp

代表携帯 090-2214-5938

※Email が有り難いです。